

問1 大正時代に発生した米騒動に関する記述として、当時の社会状況や背景を正しく説明しているものはどれですか。（2021年 和歌山公立入試 類似）

- シベリア出兵を見越した米の買い占めにより、米の価格が急上昇したことが直接の原因となった。
- 日露戦争の講和条約の内容に不満を持った民衆が、都市部で大規模な焼き打ちを行った。
- 足尾銅山から流出した鉱毒による被害に対し、田中正造が天皇へ直訴を行った。
- 工業化による労働環境の悪化を背景に、日本最初の労働組合が結成された。

問2 1920年代から1930年代の日本において、映画やラジオ放送といった「大衆娯楽」が都市部を中心に急速に普及した背景として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 鳥取公立入試 類似）

- 工業化にともなう都市化が進み、給料生活者であるサラリーマンなどが余暇を楽しむようになった。
- 鹿鳴館が開館したことで、西洋風の生活様式が全国の農村部まで瞬く間に浸透した。
- 高度経済成長により、カラーテレビや電気冷蔵庫などの家電製品がすべての一般家庭に普及した。
- コンピュータ技術の発達により、個人が自由に情報の発信や受信を行える環境が整った。

問3 第一次世界大戦の期間中に起こった、日本に関わる出来事として最も適切なものはどれか、以下の説明文から選びなさい。（2021年 静岡公立入試 類似）

- 軍事力による圧力のもと、韓国を併合して日本の領土とした。
- ドイツの軍事拠点であった青島を占領し、中国に二十一か条の要求を突きつけた。
- 柳条湖事件をきっかけに満州事変を起こし、国際連盟を脱退した。
- ドイツ・イタリアとの間で日独伊三国同盟を結び、枢軸国側に加わった。

問4 1914年には、日本の産業構造において農業生産額が45.4%、工業生産額が44.4%でしたが、1919年には工業生産額が56.8%に急増し、農業生産額の35.1%を大きく上回りました。このように、工業生産額が農業生産額を追い抜き、日本が工業国へと発展する直接のきっかけとなった出来事はどれですか。（2019年 大分県公立入試 類似）

- 日露戦争の開戦にともなう軍需産業の拡大
- 第一次世界大戦の勃発にともなう輸出の急増
- 世界恐慌の発生にともなう国内産業の保護
- 日中戦争の長期化にともなう重化学工業化の推進

問5 大正時代の政治状況において、原敬が内閣を組織した当時の背景として正しいものはどれですか。当時の衆議院の状況や制度に触れたものを選びなさい。（2018年 埼玉県公立入試 類似）

- 衆議院議員の所属政党別の割合において、立憲政友会が4割を超えて第一党となっており、議会の多数派を背景とした政権運営が可能であった。
- 普通選挙法が施行された直後であり、納税額に関わらず全ての成人男性が投票した結果、原敬が率いる政党が勝利した。
- 大日本帝国憲法の改正により、衆議院の第一党の党首が必ず首相にならなければならないという規定が新たに設けられた。
- 日露戦争の講和条約に対する国民の不満が高まったことを受け、藩閥政治を支持する勢力が議会の第一党となった。

問6 大戦景気の時期における日本の産業構造の変化と、その影響について正しく述べているものはどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

- 造船業や鉄鋼業、化学工業などの重化学工業が飛躍的に発展した。
- 生糸や綿糸を中心とした軽工業が衰退し、代わって農業が主要産業となった。
- 欧米諸国からの輸入が急増したため、国内の重工業は深刻な不振に陥った。
- 急速なインフレが発生したため、都市部の労働者の実質賃金が大幅に上昇した。

問7 1920年代から1930年代の日本において、世界恐慌による不況で困窮した農村部では、土地を借りて耕作する農民が、地主に対して小作料の引き下げなどを求める運動を激化させました。この運動を何と呼びますか。（2022年 宮城県公立入試 類似）

- 小作争議
- 地租改正反対一揆
- 打ちこわし
- ええじゃないか

問8 1918年、富山県の海岸沿いの町で主婦たちが米の県外搬出を阻止しようとした行動をきっかけに、全国規模の騒動へと発展した出来事を何といいますか。（2026年 奈良公立入試 類似）

- 米騒動
- 秩父事件
- 足尾銅山鉱毒事件
- 日比谷焼打事件

問9 第一次護憲運動において、憲政を無視する内閣を議会で厳しく糾弾し、後に「憲政の神様」と呼ばれた人物は誰ですか。（2017年 愛媛公立入試 類似）

- 尾崎行雄
- 板垣退助
- 吉野作造
- 桂太郎

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> シベリア出兵を見越した米の買い占めにより、米の価格が急上昇したことが直接の原因となった。	1918年当時、政府がシベリア出兵を宣言したことで、軍用米などの需要が高まると予測した商人が米を売り惜しみ、市場の米価が跳ね上がりました。この物価高騰が民衆の生活を直撃し、富山県から始まった米の安売りを求める運動が、全国の都市や農村で米屋を襲うなどの大規模な騒動に発展しました。なお、他の選択肢にある日露戦争後の出来事は日比谷焼打事件、公害問題に関するものは足尾銅山鉱毒事件であり、米騒動とは背景が異なります。
問2	<b>答え 1</b> 工業化とともに都市化が進み、給料生活者であるサラリーマンなどが余暇を楽しむようになった。	大正時代から昭和初期にかけて、都市部で働く事務職や技術職などの給料生活者（サラリーマン）が増加し、彼らの生活様式が洋風化するとともに、休日や仕事終わりの時間を映画やラジオなどの娯楽に充てるようになりました。これが大衆娯楽普及の大きな要因です。鹿鳴館は明治時代初期の欧化政策に伴うもの、家電の普及は戦後の高度経済成長期、コンピュータの普及は現代に近い時期の出来事であり、時代背景が異なります。
問3	<b>答え 2</b> ドイツの軍事拠点であった青島を占領し、中国に二十一か条の要求を突きつけた。	1914年から1918年の第一次世界大戦期、日本は日英同盟を理由に連合国側として参戦しました。ドイツの軍事拠点であった中国の青島や南洋諸島を占領し、さらに中国での権益を強固にするため二十一か条の要求を行いました。韓国併合は1910年、国際連盟脱退は1933年、日独伊三国同盟は1940年の出来事であり、いずれも第一次世界大戦の期間外です。
問4	<b>答え 2</b> 第一次世界大戦の勃発とともに輸出の急増	1914年に始まった第一次世界大戦により、戦場となったヨーロッパ諸国の生産活動が停滞しました。これに代わって、日本製の綿織物などの軽工業品や船舶の輸出がアジア市場を中心に急増したことで、日本の工業生産額は飛躍的に伸び、農業生産額を上回る産業構造の変化が起こりました。この景気は「大戦景気」と呼ばれます。
問5	<b>答え 1</b> 衆議院議員の所属政党別の割合において、立憲政友会が4割を超えて第一党となっており、議会の多数派を背景とした政権運営が可能であった。	原敬内閣の成立時、衆議院では立憲政友会が約43%の議席を占める第一党となっていました。このように、国民の選挙によって選ばれた議員が多数派を占める政党が政権を担当する仕組みを「政党政治」と呼び、大正デモクラシーを象徴する出来事となりました。なお、普通選挙法が成立するのは1925年であり、原敬の時代はまだ高額納税者のみに選挙権が与えられていた点に注意が必要です。
問6	<b>答え 1</b> 造船業や鉄鋼業、化学工業などの重化学工業が飛躍的に発展した。	大戦景気を通じて、日本の産業の中心はそれまでの軽工業から、造船・鉄鋼・化学といった重化学工業へと移り変わっていきました。世界的な船舶不足を背景に造船業が特に潤い、莫大な利益を得て「成金」と呼ばれる人々が登場したのもこの時期の特徴です。
問7	<b>答え 1</b> 小作争議	大正末期から昭和初期にかけて、経済不況により農村の生活は非常に苦しくなりました。収穫した農作物の半分近くを地主へ納める高い小作料が農民の負担となっており、その減免を求めて団結して地主と交渉する「小作争議」が急増しました。1922年には日本農民組合が結成されるなど、運動は組織化されましたが、依然として苦しい生活が続いたことがブラジルへの移住を決意する大きな要因の一つとなりました。
問8	<b>答え 1</b> 米騒動	シベリア出兵を見越した米の買い占めにより、米価が急激に上昇しました。これに対し、富山県の漁村の主婦たちが米の積み出しを阻止しようと集まった運動が新聞で報じられ、全国的な抗議活動や暴動へと広がりました。
問9	<b>答え 1</b> 尾崎行雄	尾崎行雄は犬養毅とともに護憲運動をリードし、議会で桂太郎内閣を批判する名演説を行いました。彼は長年にわたって衆議院議員を務め、日本の議会政治の発展に大きく寄与したことから「憲政の神様」と称えられています。一方、吉野作造は民本主義を唱えて大正デモクラシーの理論的支柱となった学者であり、板垣退助は明治時代の自由民権運動を指導した人物です。